

# 第5回都市農地保全自治体フォーラム ～会員自治体取組事例紹介～

平成23年9月5日  
都市農地保全推進自治体協議会



# 昭島市

市長：北川 穰一

【美しい水とみどりを将来の世代に】

美しい水とみどりの町、昭島市。東京のほぼ中央部に位置し豊かな湧き水と緑に恵まれ、東京都で唯一地下水だけの水道水を供給しています。





# あきる野市

市長：臼井 孝

## 【地産地消型農業の推進】

消費者と農業者の信頼関係を深めるため、ゴボウやユズなどの収穫体験や散策などによる、『あきる農を知り隊（農ウォーク）』の交流イベントを実施し、地産地消型農業をさらに推進しています。







# 足立区

区長：近藤 弥生

## 【農業体験学習事業】

園児や児童等の食習慣や人格形成に重要な役割を果たす「農業に関する教育の振興に係る校外学習事業」を有効かつ効果的に実施するため、収穫を始めとした農業体験を区内農家の協力のもと推進しています。





# 板 橋 区

区長：坂本 健

## 【農業後継者の育成支援】

板橋農業後継者の会「若葉の会」は、平成18年3月に結成。視察研修やイベント事業での直売等を通じて企業的経営を目指しています。板橋区は今後も若葉の会の活動を支援して参ります。

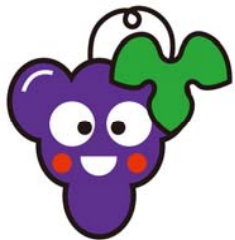


# 稲 城 市

市長：高橋 勝浩

## 【フルーツランド 稲城】

稲城市は、果実の栽培が盛んです。特に地域ブランド「稲城の梨」、東京生まれのぶどう「高尾」は、8月から10月の最盛期には贈答用高級フルーツとして全国各地に送られます。





# 江戸川区

区長：多田 正見

【江戸川は花と野菜のゆめ産地】

68万区民が生活する江戸川区。大都市の中で「都内第1位の生産量を誇る小松菜」と「東京の花どころ」といわれる花卉園芸が盛んに行われ、産業の一躍を担っています。



江戸川区特産 小松菜

サラダ小松菜



FOOD ACTION NIPPON AWARD 2010  
研究開発・新技術部門 入賞



「花の祭典」会場風景

江戸川は  
花と  
野菜の  
ゆめ産地





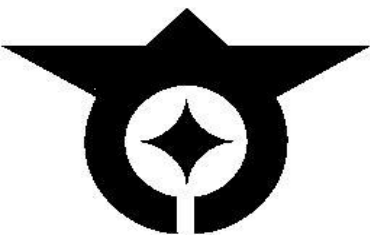
# 青 梅 市

市長：竹内 俊夫

## 【市民農園等の普及】

市が運営する市民農園の他、農家自ら開設する農業体験農園等への補助を行い、平成22年度末までに合計約20アールの農園が開園しています。





# 大田区

区長：松原 忠義

## 【野菜と花の品評会】

区内農業者による品評会を実施しています。あわせて、区民農園や家庭菜園の野菜自慢、農業パネル展示、段ボール堆肥等のミニ講座、区内の野菜を使った料理の紹介と試食なども行い、農業への理解を深めています。





# 葛飾区

区長：青木 克徳

## 【ビニールハウス夜間避難訓練】

都市における農地の防災機能に着目し、ビニールハウスでの夜間避難訓練を実施。ハウス内での就寝体験や炊き出しを行い、災害時における避難の検証を実施し、都市における農地の役割をPRしています。



とれたて・イキイキ  
葛飾 元気 野菜





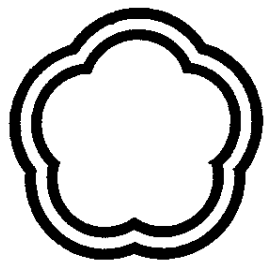
# 清 瀬 市

市長：渋谷 金太郎

## 【市内産農産物のブランド化の推進】

市内産農産物のブランド化検討委員会を立ち上げ検討を行ってきました。そこで農商工の連携を図り市内在住のペーパークラフト第一人者のデザインによる出荷容器や小袋を作成するに至り、地域ブランドの確立を目指しています。





国

立

市

市長：佐藤 一夫

## 【活き活き都市農業推進事業】

府中用水やハケ(崖線)の整備により営農しやすい環境を整えるとともに、加工・流通・販売のあり方を改善して国立産の農産物の販路を確保していきます。また、体験農園等を開設して農とのふれあいを充実させます。







# 小 金 井 市

市長：佐藤 和雄

【農がみんなの笑顔をつくる

12万人の小金井都市農業】

農業の生産性の向上や食の安全など農業の取り巻く環境の変化に対応し、都市農地を活かした農業振興を進めるため、「農」を取り巻く全ての人々の「笑顔が見える農業」の振興を目指します。





# 国分寺市

市長：星野 信夫

## 【国分寺いきいき農園】

市が寄附を受けた生産緑地を整備し、平成23年5月にオープンしました。障害者団体や市民団体に貸し出しており、利用団体は、地元農業者や市民農業大学卒業生のアドバイスを受けながら、野菜作りを楽しんでいます。





# 小平市

市長：小林 正則

【ブルーベリー摘み取り応援隊が活躍中】

小平市は、日本で初めてブルーベリーが栽培された「ブルーベリー栽培発祥の地」です。今年から市民による『摘み取り応援隊』を組織し、市内の農園で活躍しています。



「ぶるべー」





# 狛江市

市長：矢野 裕

## 【農業ウォッチングラリー】

JAマインズ狛江青壮年部と共催で、市民を対象に、若手農業者との交流、地元野菜及び都市農業への理解を目的に毎年7月に開催しています。100名近くが参加し、クイズに答えながら市内圃場で収穫を体験してもらいます。







# 杉並区

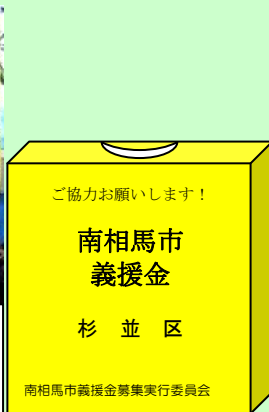
区長：田中 良

## 【被災地を支援する農産物即売会の開催】

東日本大震災直後のチャリティー即売会（3／30・31日）の開催や杉並区主催南相馬市支援チャリティーバザー（5／29）の参加など、杉並区の農業者は、区内の各団体とともに被災地支援活動にも力を尽くしています。



3月30（水）31（木）  
区役所庁舎前にて



5月29日（日）  
区立柏の宮公園にて





# 世田谷区

区長：保坂 展人

## 【認定・認証農業者制度】

「世田谷区農業振興計画」に基づいて認定・認証農業者制度を導入し、世田谷農業の中核となる農業者の育成・支援を図っています。認証農業者は、区独自の制度として、農業所得の目標が200万円以上300万円未満を基準としています。



認定農業者 22人  
認証農業者 23人



# 立川市

市長：清水 庄平

【立川のトマトはすごい！

～Tachi Toma～】

09年度から、地元トマトの特産化事業に取り組み、地元生産者21人で「立川ブランドトマトP. T.」を設立。のぼり旗や出荷箱、袋を作成してPRしています。市内に4箇所ある共同直売所にて購入できます。





# 多 摩 市

市長：阿部 裕行

## 【ふれあい農業推進事業 体験農業】

農作物の栽培過程の一部を体験することで、子どもたちに自らの食生活について考え、農業への関心を深めてもらうことを目的として、農業委員会と市内児童館の共催で、平成5年より実施しています。







# 調 布 市

市長：長友 貴樹

## 【体験農園の推進】

多様な農業体験の場として、市内に農業体験ファーム4園151区画を開設し、農業者と市民との協働と交流を図りながら農地と作物に触れる場の提供に努めております。





# 中野区

区長：田中 大輔

## 【中野区親子農園事業】

18歳未満の子どもと同居する家族を対象に、昭和44年から開始しました。貸出区画は148区画(1区画9.9㎡)です。親子が自然に親しみ、青少年の健全育成を目指しています。





# 西 東 京 市

市長：坂口 光治

## 【第1回西東京市都市農業フォーラム】

2月26日、市民と農業者を対象にした都市農業フォーラムを開催しました。武蔵大学後藤光蔵教授に「都市農業の多面的機能」をテーマに講演していただき、講演後は市内農業者などを迎え、都市農業が持つ役割や機能について意見が交されました。



西東京市農産物キャラクター  
「めぐみちゃん」





# 練馬区

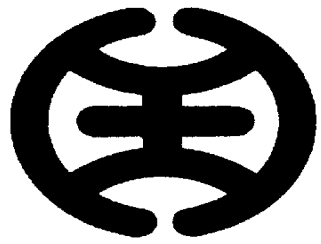
区長：志村 豊志郎

## 【地場農産物のブランド事業】

全国的なブランドである「練馬大根」の栽培を促進するとともに、「金子ゴールデンビール麦」や地場農産物を新たなブランド品として開拓しています。また、キャベツなどを品質の高い農産物として育成に努め、練馬の農産物の評価を高める取組を行っています。







# 八王子市

市長：黒須 隆一

## 【はちおうじ農業塾の開講】

平成23年度から「はちおうじ農業塾」を開講し、2年間の農業研修を実施することで、農作業の知識や技術を身につけます。

卒業生は遊休農地解消を目的とした農家直営農園の利用者や、今後取り組みが望まれる、農作業受委託制度の担い手として結びつけていきます。



# 羽 村 市

市長：並木 心

## 【農ウォーク事業】

市民(消費者)を対象に市内農地を回り、掘り取り収穫などの作業体験を通じ、農業、地場産野菜の安全安心への理解、農業振興に対する意識を深めていただいています。



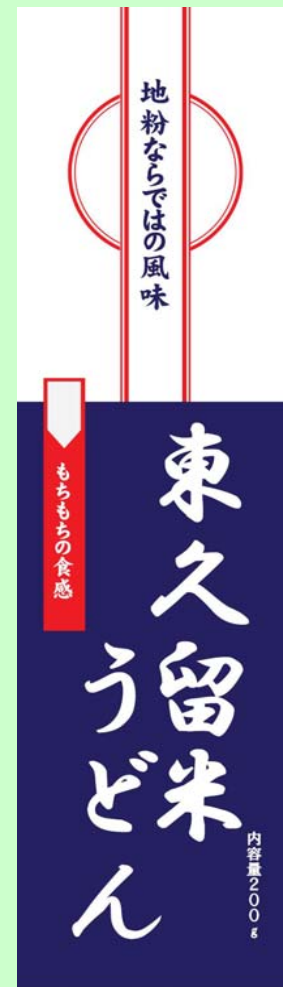


# 東久留米市

市長：馬場 一彦

## 【地場農産物活用事業】

市内産小麦（農林61号）を100%使用し、もちもちとした食感で、小麦の香りが口いっぱいに広がる、乾めん「東久留米うどん」が誕生しました。





# 東 村 山 市

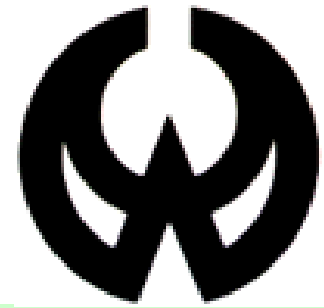
市長：渡部 尚

## 【生産緑地の追加指定】

平成14年度より生産緑地の追加指定を開始しました。平成22年度までに延べ61件、64,592平方メートルを追加指定しました。今後も積極的に農地の保全に努力していきます。







# 東大和市

市長：尾崎 保夫

## 【地産地消交流事業 とうもろこし収穫体験】

市と東大和市そ菜園芸組合の共催で、とうもろこしと夏野菜の収穫体験を実施しました。参加した親子は、「たくさんとれた」「とてもおいしかった」「また参加したい」「貴重な体験ができた」と感想を話していました。





# 日 野 市

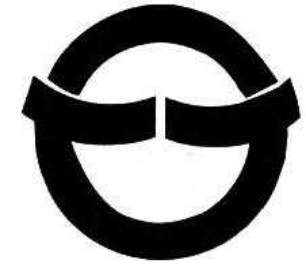
市長：馬場 弘融

【学校給食用地元野菜等

供給コーディネーター】

学校給食地元農産物供給事業では、平成20年度より学校栄養士・調理員、農業者の調整役(コーディネーター)が活躍し、作付面積や供給量の管理、クレーム対応等を行い供給量の拡大・利用率の向上を図っています。





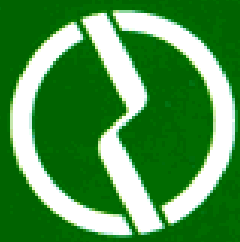
# 町 出 の 日

町長：橋本 聖二

## 【地産地消型農業の推進】

手作りの顔が見える新鮮で安全な地元農産物の販売や地元加工品の販売を促進し、農業者の生産意欲の向上「地産地消」を根幹とした農業の維持、振興を図っていきます。





# 府 中 市

市長：野口 忠直

## 【子ども農業体験推進事業】

子どもに農業体験をさせることで、自然に触れる機会を提供し、食べ物の安全性や大切さ、自然の恵み等について学んでもらうことを目的に、市内小学校17校で水稲栽培や野菜栽培、椎茸栽培の体験を実施しています。







# 福 生 市

市長：加藤 育男

【26市では最後に！

農業振興計画策定される】

平成23年3月、26市では最後となりましたが、福生市農業振興計画が策定されました。緑地保全を目指し、生産緑地の追加指定を積極的に推進してまいります。なお、9月12日から追加募集を行います。



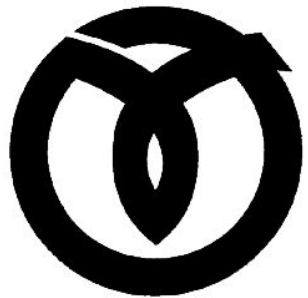
# 町 田 市

市長：石阪 丈一

## 【田んぼのある里推進事業】

貴重な谷戸風景を保全するため、水稲を作付けしている水田を対象に10aあたり15,000円の水田保全奨励金を交付します。この他、レンゲ草の種の配布等も行っています。





# 瑞穂町

町長：石塚 幸右衛門

## 【農地流動化の推進】

瑞穂町では増加傾向にある遊休農地の対策、認定農業者の支援策として、農業経営基盤強化促進法に基づく利用権設定による農地の流動化に取り組んでいます。昨年度は、8件、90アールの利用権設定を行いました。

設定前



設定後





# 三鷹市

市長：清原 慶子

## 【農のあるまちづくり】

生産緑地の追加指定を含め、農地の保全と活用、都市農業としての発展及び生産性の向上を図り、市民に新鮮で安全安心な市内産作物と緑地を提供する「農のあるまちづくり」の推進を行い、良い農地の顕彰も行っています。







# 武蔵野市

市長：邑上 守正

## 【フレッシュサラダ作戦】

地産地消の推進及び市内農業の振興を図るため、生産者による直売会と、市内農家見学会を実施しています。



開店前から行列



フレッシュサラダ  
作戦開催中



# 武蔵村山市

市長：藤野 勝

## 【東京でみかん狩り】

都内で、随一みかん狩りができます。  
狭山丘陵の南斜面にあるみかん園  
が7カ所あります。皮が薄く、糖度と  
酸味がほどよい品種「宮川早生」の  
もぎとりが10月下旬より楽しめます。





目

黒

区

区長：青木 英二

### 【農産物品評会】

区内の農家で生産された農産物の品評会を、夏と秋の2回行っています。少ない生産量ですが、丹精込めて作られた野菜や果物が出品され、その後の即売を楽しみに待っている区民の方々に喜ばれています。

